日本結晶学会平成 26 年度総会議事録

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土） 15：10−16：10
場所：東北大学弥生講堂一条ホール
出席者：88 名、委任状：86 名

議事

報告事項

1　会務報告

庶務幹事、広報幹事、編集幹事、行事幹事、情報幹事、男女共同参画推進幹事から、会務に関する報告が行われた。

2　会計報告

会計幹事から平成 25 年度決算、平成 26 年度予算執行状況、平成 27 年度予算案が報告された。

3　学術会議報告

高田評議員より、日本学術会議結晶学分科会、IUCr 分科会（IUCr 国内委員会）の第 6 回、第 7 回合同委員会の開催が報告され、23 期存続希望がだされて 10 月 1 日より 23 期も分科会（世話人：高原淳）が継続する事が報告された。

4　IUCr 報告

高田評議員より、IUCr 総会（8 月 6, 7, 11 日）の内容として，日本から IUCr 執行部に高田昌樹評議員が選出され，Commission Member に日本から多数選出された事が報告された。

5　IYCr 活動報告

高田評議員より、世界結晶年日本委員会実行委員会の活動について報告があった。

6　AsCA 関係報告

西堀評議員より、AsCA 評議員会の内容が報告され、AsCA2015（開催場所：インド、コルカタ）と AsCA2016（開催場所：ベトナム、ハノイ）の準備状況、および AsCA2018 の開催場所がニュージーランドに決定した事が報告された。

7　その他

次に、千田行事幹事より平成 26 年度結晶学会ポスター賞の選考結果が発表された。

審議事項

1. Orthorhombic の訳語を「直方晶系（斜方晶系）」とする提案

栗栖庶務幹事より、評議員会での審議を基に総会資料 1 を用いて、Orthorhombic の訳語として用いられている「斜方晶系」は、初学者に誤解を招きやすいため、世界結晶年を

機会に、より適切な訳語である「直方晶系（斜方晶系）」の利用が提案され、承認された。

引き続き、日本結晶学会賞授賞式が行われた。

総会資料

資料１：

Orthorhombic の訳語を「直方晶系（斜方晶系）」とする提案

現在、Orthorhombic の日本語訳として「斜方晶系」が広く用いられている。日本結晶学会は、より適切な訳語として「直方晶系（斜方晶系）」の使用を提案する。

Orthorhombic の訳語として用いられている「斜方晶系」は、初学者に誤解を招きやすい。世界結晶年を機会に、より適切な訳語である「直方晶系（斜方晶系）」の利用を提案し、地道に普及させていこうとするものである。

参考：桜井敏雄「結晶学の用語あれこれ」日本結晶学会誌　23，303（1981）